

午後 1 時 30 分 開始

【秘書広報課長補佐】 ただいまから、平成25年 9 月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

本日の会見の進行につきましては、お手元に配付の次第のとおり、最初に市長の挨拶、その後、9 月補正の概要説明と秋の交通安全市民大会ということで、2 項目について事業発表をいたします。質問につきましては、事業発表についてからお願いをしたいと思います。事業発表に係る質疑応答終了後に、次第の 3 番目、フリーの質疑応答へと進行したいというふうに思います。なお、終了は14時30分を予定してございます。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、市長、よろしくお願いいたします。

【市長】 1 日から敦賀祭りがありますけれども、台風情報が気になっておりまして、大変心配をしておりますけれども、何とかできるように努力したいと思います。

ところで、昨日でありますけれども、籠一郎議員が逝去されました。大変突然なことではございます。私も驚いているところでございます。議員は平成15年に市議員に当選をされてからいろいろと活躍をされ、また副議長も歴任をされた方ではございます。大変残念でございます。いろんなユニークな提案もいただきながら、非常に明るい、楽しい、またユーモアのある議員でありましたけれども、重ねて残念でありますし、心からお悔やみ申し上げたい、このように存ずるところでございます。

それでは、座りまして説明をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

まず今回、9 月補正予算から説明させていただきます。

今回の補正予算につきましては、国庫補助金の内示に伴うものなど、6 月補正予算以降に予算措置が必要になったものを計上いたしましたところであります。

まず、現下の地域経済の情勢を鑑みまして、追加の経済対策を行うこととしました。新産業団地の適地調査、また首都圏におけます特産品の販路拡大に向けました物産展の開催、また経済活性化施策の推進として、それぞれ 4 事業を計上したところであります。また、ゲリラ豪雨対策、避難所施設の改修など、安心・安全対策の前倒しといたしまして10の事業を行います。さらに、地域の元気交付金を活用しました公共投資として、花城テニスコートの改修事業を計上し、地域経済の下支えを行っていきたいというふうに思っています。

その他、補正予算の主な事業といたしましては、総務費のほうで、災害対策基本法の一部改正、また国の原子力災害対策指針の改定等にあわせまして、本市の地域防災計画の改定を行います防災会議運営費を計上いたしましたところであります。

民生費のほうでは、初期の認知症の方への早期診断、早期対応を図るために、医師また介護職員等によります支援チームの設置に要する経費を計上いたしました。在宅生活の継続でありますとか重症化の予防に取り組みたいというふうに思っております。

商工費のほうでは、赤レンガ倉庫の耐震補強等に係ります実施設計委託料を計上いたしますとともに、博物館通りの町家の完成、開業に合わせましたオープニングイベントの開催補助金を計上いたしましたところであります。

教育費のほうでは、来春の看護大学の開学に向けまして、入試試験や図書整備に係る所要額を計上いたしました。

特別会計では、国民健康保険特別会計及び介護保険特別会計におきまして、保険給付費の確定に伴う精算返還金を計上したところでございます。

以上が今回の補正予算の概要でございます。よろしくお願いいたします。

次に、秋の交通安全市民大会の開催ということで、お手元に配付のとおり、9 月27日にプラザ萬象で700人ぐらいに参加をいただいて、交通事故撲滅に向けての大会を開催したいと思っております。

以上です。

【秘書広報課長補佐】 それでは、ただいま発表いたしました項目についてご質問をお受けしたいというふうに思います。

それでは最初、幹事社からよろしくお願いいたします。

【記者】 9 月の補正予算について伺いたいんですが、新しい産業団地の調査事業という

のが入っていますが、これは原発の長期停止を受けて今落ち込んでいる地域経済に対して期待が大きいと思うんですが、新しい産業団地に対する市長の期待と、もう1点は、現在バイパス沿いにありまして、まだ半分近くあいている状況ですが、今後、まだあそこがあいているのに新しくつくって、さらに入ることが見込めるのか、そのあたりの見通しの2点をお願いします。

【市長】 まず、従来の産業団地でありますけれども、製造業という規制もしておりますが、誘致活動を進めておりますので、そう遠くない時期にはいっぱいできると確信をいたしております。

それと今回、やはり港湾関係で物流等も視野に入れたということで、候補者幾つかあるんですけども、その中でどこがいいかという調査に入るわけでありまして。物流も含めた一つの場所にもなりますし、県のほうもいろいろと私ども地域のために経済対策等を考えていただいておりますので、県と十分に歩調を合わせながら取り組む事業としてやっていきたいというふうに思っています。

かなりの雇用も創出できるというふうに思いますし、地域経済の活性化に大いに寄与できるものというふうに期待をいたしております。

【記者】 同じく補正予算の関係で、博物館通りの町家再生事業費のことでお尋ねします。オープニングイベント等の経費というふうになっております。10月下旬と12月というふうに分かれていますけれども、オープニングイベントについて、現段階でわかる範囲で結構なんですが、日付がいつごろでどんなことをされて、それからオープニング等となっているのは12月の行事かと思うんですけども、これはどんなことを考えているのかについてお尋ねします。

【産業経済部長】 まず、町家の整備が10月にできますので、その関係で10月26日の土曜日にオープニングイベントを開催いたします。ただ、町家側のご希望で24日の木曜日にオープンしたいということで、24日、25日の木、金と、26日の土曜日に、周辺でにぎわいの創出をしたいと考えております。そして、12月に道路の高質化が完成しますので、そのときにも合わせてまたそういうふうなにぎわいを創出したいということで考えてございます。

【記者】 後段の部分がやや聞き取りにくかったんですが、12月は道路の……。

【産業経済部長】 道路の高質化でございます。電柱の地中化とか。

【記者】 ということは、10月のオープニングイベントの段階では道路関係の工事はまだ途上であるということになるのでしょうか。

【産業経済部長】 一応、整備の途中ではございますが、オープニングイベントの邪魔にならないような程度で完了しているということで、電柱はまだございますが邪魔にはならないということでお聞きしております。

【記者】 計画どおりなのかもしませんが、この際だからお尋ねします。

当然、オープニングイベント、オープンに合わせて道路工事も進めるべきだったのでしょうけれども、ずれている原因、もしくはずれてしまった原因というのはどんなところがございますか。

【産業経済部長】 担当部署ではございませんが、最初から道路の関係につきましては工期が12月末となっております。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社お伺いしたいというふうに思います。各社ご質問ございましたら挙手をお願いいたします。

【記者】 今回の補正ですけれども、経済活性化施策の推進として4事業とあるんですけども、ここに挙げられています今の新しい産業団地及び首都圏での物産展、そのほかあと2事業というのはどれを指すのでしょうか。

【総務部長】 皆さんのお手元に補正予算事業概要というのをお配りしてあると思います。これの最後のページに今回の経済対策等についての一覧をつけさせていただきましたので、これをごらんいただきたいと思います。

【記者】 産業団地のことで、一応適地調査ということなんですけれども、港周辺ということが挙げられているようですけれども、具体的に何か地籍というか、場所について今考えているところが言えれば教えてください。

【塚本副市長】 きょうの新聞等で県のほうから報道されていますけれども、候補地としては、前回もいろんな中でご質疑を受けたわけでございますけれども、4カ所ほどあるんですね。その中で優先順位の高いところから調査していこうと。そして絞り切って、そこで基本設計なり実施設計をつくっていこうというふうに思っています。

今回は港周辺ということで、鞠山と田結付近、あのあたりで調査をやろうと。地質調査とかそういうことをやらないと大体の概算事業が出てきませんので、そういった中で絞り込んでいきたいというふうに思っています。

【記者】 今の産業団地の関係で、鞠山と田結のあたりでということと今言われていたけれども、今年度調査やって、うまくいけば来年度からというスケジュールになる。来年度中に完成させられればということなんでしょうか。

【塚本副市長】 一般的、常識的には年度内ぐらいにそういう調査と大体の候補地を絞り込む。絞り込んだらそれに基づいて基本設計及び実施設計をやると。その年度に果たして着工までこぎつけるかどうかというのは、今の段階においてクリアな話ではないですね。

【記者】 それと、美浜のほうでは、町長さんが県のほうに整備に係る予算枠の確保をお願いしますということで要請に行かれましたけれども、敦賀のほうではもう既にされたとか、あるいはこれからされる予定というのはあるんでしょうか。

【塚本副市長】 まだうちのほうは行ってません。というのは、まだ候補地の絞り込みの段階ですから、そこで具体的にこの土地でやれるということになれば、また市長のほうから県のほうに要請に行くことになるというふうに思います。

【記者】 今回の補正予算で認知症初期支援チームをつくるのに700万円ぐらい計上されているんですけども、つくることにしたという理由と、具体的にどういう取り組みをするのかを教えてください。

【健康福祉部長】 これは、全国的にもそうですが、敦賀市でも大体4,500人ぐらい、認知症の方、またこれからなられる方が、これは予定と申しますか推測でございますけれどもそれぐらいおられるなということで、まずは集中的に早期発見、早期治療という目的で、実は今、地域包括支援センターが市内に3つございますので、そこにそれぞれのチーム、専門医とか、それから介護福祉士とか保健師とかそういうところに委託しまして、そして認知症の早期発見、早期治療を目指すというような内容でございます。

【記者】 新たにそういう介護とか看護師さんとかを雇用するということになるんですか。

【健康福祉部長】 それぞれの地域包括支援センターの中に、既に介護福祉士の方とか保健師の方がおられます。そこに委託すると。ただ、専門医の方については敦賀におられる方をお願いするというのでございます。

この事業については、全国14カ所選定されている国の10分の10に係るモデル事業として推進してまいる予定でございます。

【記者】 地域防災計画の再改定のことなんですけれども、年度内がめどなんですかね。以前はそういう話だったような気がするんですけども、今回、ヨウ素剤の事前配布とか広域避難についてはまだ敦賀市さんは入ってないと思うんですけども、そのことをどれぐらいのスパンでやろうとしているんでしょうか。

【木村副市長】 6月7日に防災会議を開催いたしまして、それまでに決定をしていた指針等について盛り込ませていただきました。それ以降に、今言われました安定ヨウ素剤の問題ですとか県の防災計画が策定をされましたので、そういったものを盛り込んだ形で今年度中につくると。なおかつ、広域避難につきましても今相手先と調整をさせていただいていますので、そういったものも盛り込めればというふうに思っています。

【秘書広報課長補佐】 そのほかございませんでしょうか。

それでは、次第の3番目、フリーの質疑応答へ移りたいと思います。

【記者】 原子力のことと伺います。規制委員会ができて1年過ぎたんですが、先日、知事が官房長官に対して、規制委員会のあり方や政府の監視と申しますか関与なんかについてもいろいろ意見を言っていました。この1年間振り返ってみて、いろいろ敦賀市に影響の大きいこともたくさん規制委員会の中で議題に上がって結論も出ましたが、規制委員会について、どういったところに課題なりがあるというふうに思っているのか。これまでもたくさんいろんなご意見おっしゃっていますが、改めてお願いします。

【市長】 この規制委員会も福島事故を受けて、やはり原子力をしっかり安全なものかどうか確認しようということできたわけでありすけれども、ああいう事故を受けてつくったものですから、どうしても、ともかく規制をしていこうという意識で何か強く走ったようでありすし、やはりまたそういう委員さんも前政権の中で来たものですから少し偏りがあつたのかなというふうに言わざるを得ないというふうには思つていすし、常々言つていすとおりでございす。

そういう中で、アメリカの規制当局なども、またその規制当局をチェックする機関というのがありますので、そういうことを含めて知事は、要するに規制機関をチェックするそういう機関をつくれということでは要望など言つていただいていすので、非常に私どもも賛同いたしていす。

そういう中で、国会の中でもチェックをするというようなことをお話もしていすけれども、やはりああいう規制をする機関というのは特に公正、公平にやらなくちゃならん機関でございすから、そういうことを再認識していただいて、安心・安全の中で原子力は稼働する形で、規制をしっかりと安全を確保していくという規制機関になつてほしいなというふうには思つていす。

【記者】 来月2日、それから15日に大飯3・4号機が停止しす。また、大飯の破砕帯の調査の結果もおおよそ先が見えてきて、2日に何がしかの結論が出る見込みとなつていす。大飯については、定検明けの再稼働についても何がしかの見通しがつたような状況ですが、一方では敦賀半島の各発電所の見通しは立たないという状況があります。こういう状況を市長が最近、立地間格差という言葉もよくお使いになりますけれども、そういったことで現状の認識と、それから直近の課題、それからエネルギー基本計画ができた後の課題、中長期的な課題みたいなものがあるればこの際教えていただけませんでしょうか。

【市長】 確かに立地地域によつても、伊方でありすとか薩摩川内等々、いよいよ新基準に合わせてチェック、申請をされておるといふことで大変喜ばしいことだといふふうには思つていす。新基準の中でしっかりと照らし合わせて安全が確認されれば、早く稼働をしていただければなといふふうには思つていす。ただ私どもの地域は、先ほど言ひましたように規制庁また規制機関のいろんな思ひの中で、例えば破砕帯を活断層と認定をした諸問題なども残つていすので、そのあたりはその分野としてしっかりと解決なり白黒はつきりつけるといふと変ですけれども、そういうような形がとられるように願つていす。

それと立地地域間格差というものも、やはりそうなつてくると生まれるのは仕方ないわけでありすので、私もさつき言ひましたそういう問題が早く解決をしていけば同じような土俵に乗れるんじゃないかなといふふうには思ひますから、ぜひそういう意味では、例えば私ども地域をたなざらしにしまして、後から後からといふふうには先送りするんじゃないで、そちらのほうもやはり国として、また規制機関としてしっかりと早く対応することを願つていす。

【記者】 立地間格差の中で一番大きな問題といふか、最初に解決していかなきゃいけない問題といふのは何だといふふうにお考えですか。

【市長】 まず、原子力関連で働いていす皆さん方とか、そういう仕事をされる企業の皆さん方が、要するに先が見えないということになりますと、事業所自体どうしていこうかということが全く見えないといふことで非常に苦労されていす。そういう意味で、例えば動く地域が出ればまたそういうところに仕事をうまくできればいいんですけれども、それぞれの立地地域の中でも、例えば申請をしていよいよ再稼働となれば、そういうところの皆さん方はまた目標を持って努力されるわけでありすけれども、私どものほうの地域はそれが見えないといふ一つ実はかなり大きな課題。事業所を続けていいのか、ほかにかわつていいのかといふことが全く決められないといふ状況が続いていすので、非常に気の毒な状況が続いていすと思ひます。

そういう立地間格差というものをやはり早く解消していく。そのためには先ほど言ひましたようにそれぞれの地域の課題というのを早く白黒はつきりつけていかななくちゃならんといふことで、そういうことにつきましても規制当局、また国のほうにも私どもお話をさせていただく。特に規制庁へ行つたときにはともかく人員をふやしてと、いろんな課題を

抱えていますし、限られた人数の中であれもこれもやれといっても無理な部分もございますので、そういうものが的確に早くこなせる体制をとってやってほしいという要望もしています。国等に対しましてもそういう話は実は今しております、そういうことも含めたエネルギーのあり方も議論をされてますから、エネルギーの方向性も含めてそのあたりは決まってくるんじゃないかなというふうに思います。

いましばらく辛抱せざるを得ない状況、それとそれにあわせていま一度そういう当局に対して早く速やかにやってほしいというような声を上げていきたいなと思っています。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社ご質問ございましたら、挙手をお願いいたします。

【記者】 今の立地間格差に続くんですけれども、逆に言えば原発再稼働は敦賀の地においては見通しが立たないと。逆にチャンスと見るならば、ほかのエネルギー分野を中心に、あるいは新産業団地もそうでしょうけれども、転換するというタイミングがあるかもしれないと思うんですが、市長は逆に今とまっている状況をどう捉まえて、今後、原発に頼らないまちづくりという部分でのさらなる強化策というのはどういったものをお持ちですか。

【市長】 現時点ではやはりそれをはっきり決めるということができない。それはやはり国としてエネルギー政策をどうするかということが議論中でありますので、それが見えない状況の中では、国としても私どもの地域、敦賀地域の中でのエネルギー政策について、国がやはり国策としてきたエネルギーを仮に他に転換するようなことがあれば、国のしっかりとした補償、要するにこういう地域はこういう形でやります、それに協力してくださいという姿勢が見えませんか。要するに決まっていない状況の中で私ども自治体が勝手に転換しますと言いましても、先が全くわからない状況で、なおそういう関連の皆さん方が路頭に迷うこととなりますから、そういう意味では国として方向性を出して、そして私ども地域にこういう形でやったらどうですかという提案など、また支援などが決まれば、またそういう話を受けてから私どもは議論したいなと思います。

【記者】 恐らく4年ぶりの増額要求になりそうなんですけれども、先月の末ですか、国の改革本部のほうで敦賀本部の記載がないというような形で、もんじゅのこれまでどおりの運営からかなり変わるかもしれないという状況なんですけれども、国の現状での案に対する評価と要望というのはありますか。

【市長】 きょう後ほど説明に来ますので、その後にも。聞いてからにします。

【記者】 また原子力ばかりというふうにお叱りを受けるので違った質問の一つしてみたいと思います。

1日から祭りが始まりますが、先日来、全国各地で花火大会が中心なんです、お祭りに関する事故であるとか、それから先日、三重では女子中学生がお祭りのときに何らかの事件に巻き込まれたというような状況になっております。

直接的な責任者ではないかもしれませんが、今度の祭りに臨むに当たって、市長の安全・安心というか、そういうものに対する意気込みというか姿勢というのを改めてお聞かせください。

【市長】 まず、花火大会での屋台の爆発事故ということで、ちょうど敦賀の花火大会の前でございまして、私どももかなりの露天の皆さん方が出店をされておりましたので、直ちにそういうチェックを消防当局で行いました。また、今回の敦賀まつりのほうもかなり露天の皆さん来ますけれども、おかげさんであそこはいつも線をちゃんと引っ張って、買電で北電のほうから購入した形でやっていますので、ガソリンを使用した発電機というのはほとんどないというふうに伺っています。

それとディズニーが来てくれるということで非常に人がふえる可能性がありますので、警備のほうは十分に取組んで、やはり事故のないように、イベントでの事故というのは私どももかなり前に大変悲しい事故も起こっておりますので、その教訓だけはしっかり生かしていきたいなというふうに思います。

ただ、先日の女子中学生のような件となりますと、これはもう犯罪の抑止でなかなか私どもの行政の中では難しいでしょうけれども、警察当局もおりますので、そのあたり十分に配慮をさせていただいて、そういう事件が敦賀の地では起こらないようにと願っております。

【記者】 原子力機構のPR館だったアクアトムが今月末で一定の結論を出すというふう  
に去年の段階では言われていたと思いますが、現時点でも新しくほかのどこかの団体が入  
るとか、それとも撤去、解体するとかそういう方針が示されていないんですけれども、市  
として何か催促したりとか、あとどういう施設が入ってほしいとか、いろんな思いがある  
と思うんです。いつまでにどういうふうな結果を出してほしいというふうに市長は思われ  
ているのでしょうか。

【市長】 確かにもう1年ということで、私どもも原子力機構に対しまして、アクアトム  
のまずあのような機能をやめるという時点の中でお話をしました。あそこは年間8万人ぐ  
らいは訪れてまして、いろんな学習の場にもなっていましたし、市民の皆さん方もギャラリ  
ーとして、またいろんなところで活用しておりました。特に中心市街地の本当にど真ん中  
にある施設でありますので、そういう意味では中心市街地が元気になるような施設として  
活用していただければ一番いいというふうに願っておったところでございますけれども、  
なかなか結論も出ていないということで、これは機構の内部でありますので、できる限り  
早く速やかにという思いはございますけれども、副市長がよく内情を知っているようであ  
りますので、塚本副市長から何か話があると思います。

【塚本副市長】 この件も新聞等でもきょう出てますけれども、今、言われたように、夏  
ぐらいをめどにきちっと機構のほうで案を固めて、そして敦賀のほうにもいろんな相談が  
来るというようなことにはなっていたんですね。そういう現実の問題では若干おくれてい  
るようではございますが、いろんな動きの中で機構も努力しているようではございます。で  
すから、いましばらくその様子を見て機構の案を待ちたいというふうに思います。とりた  
てて、さあ8月終わったやないか、はよ持ってこい、持ってこいと、そういうようなこと  
はしたくないなというふうに思っています。

【記者】 原子力機構からはおくれそうだなみたいな連絡はあったんですか。

【塚本副市長】 部長のほうへは来ているかどうか知りませんが、私のほうにはありませ  
ん。ありませんが、これは一日とか二日とか、そういう争う事項ではないというふうに思  
っています。これが一年、二年おくれるということになれば、うちとしてもなかなか放っ  
ておくわけにはいきませんが、一日や二日争うような話ではないというふうに思います。秋  
ぐらいでしっかり案をつくっていただければいいなというふうに思っています。

【記者】 先ほどの質問に関連して、敦賀まつりなんですけれども、福知山の花火の事故  
を受けて改めて何か具体的に対策をとるとか、そういったものがあれば教えていただき  
たいんですが、ありませんでしょうか。

【市長】 ああいう事故を受けてから消防当局がいろんなチェック、そういうものを使っ  
てないかとか、当然また露天の皆さん方に対しても、恐らく自分が当事者になる可能性  
があるということでもかなり気をつけられるというふうに思ってますけれども、行政の立場  
の中でもいろんなチェックをしたり、また指導ということで回らせていただいております  
でございます。

確かにたくさんの方が集まる場所なので、そういう意味では例えば車などにしても何  
か事故があって、人のたくさんいるところに入ったということも大惨事になってしまいま  
すので、ありとあらゆる想定をしながら警察当局初め、また警備、今回先ほど言いま  
したように警備力をかなり増員しましていろんなところでチェックをかける。また、多く  
の人が下手に動いたときに、一人が倒れて、またそこにとり明石の事故にもありましたよ  
うな形で、大勢の人間が動くということはある程度のリスクが発生しますので、そのあた  
りも十分注意をしながら、そういう事故の起こらないように細心の注意は払っていき  
たいなと思っています。

【記者】 ことしの敦賀まつりでは、市長はどんないでたちで参加されるのでしょうか。

【市長】 大正レトロをまたやりますので、ひげつけて変装して、誰が見ても僕とわか  
らないような形で変装しようとは思っておるんですけれども、顔を隠しても大概ばれる  
という特異な体をしておりますので、ばれてしまいますけれども、そんな形でパレード  
に出たいと思っています。

【記者】 ミッキーとは一緒に乗らないんですか。

【市長】 ミッキーは恐らくバスに乗って、上からパレード式で行くと思いますので、全

く別になると思います。

【秘書広報課長補佐】 それでは、これをもちまして9月の市長定例記者会見を終わらせていただきます。

【市長】 ありがとうございました。

午後2時8分 終了